

研究主題

中学校社会科における基礎学力向上のための方策

～ 歴史的分野における指導過程と指導方法の工夫を通して～

主題設定の理由

中央教育審議会第一次答申（平成8年7月）では、子どもたちが、それぞれ将来、自己実現を図りながら変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質や能力を身に付けていかなければならないという視点から、時代を超えて変わらない価値あるものを十分に見極めて学校教育を進めていく必要があると指摘している。

このような力を身につけた生徒を育成するためには、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、自分で判断する力、自分で表現する力、問題を解決し自分で道を切り開いていく力などの資質・能力により形成される「確かな学力」を身に付けさせていくための指導の工夫・改善が必要である。

本県では基礎学力調査を実施し、児童生徒の学習状況等の分析、考察を通して、確かな学力向上のための指導方法の工夫改善に取り組んでいる。平成14年度基礎学力調査結果分析（対象：中学校第2学年）によると、社会科は他教科と比較して最も平均点が低かった。また、学習状況実態調査の結果では、小学校段階から学年が進むにつれて社会科に対する興味・関心が低下する傾向がみられる。研究協力学校で行われた平成15年度標準学力テスト（4月実施）の分析結果として、「事実的認識の習得が不十分な分野がある。」「歴史的事象の起きた場所を把握できていない。」「地名や地域の位置が正確に理解できておらず、地図を使った問題の正答率が低い。」という生徒の実態も明らかになっている。

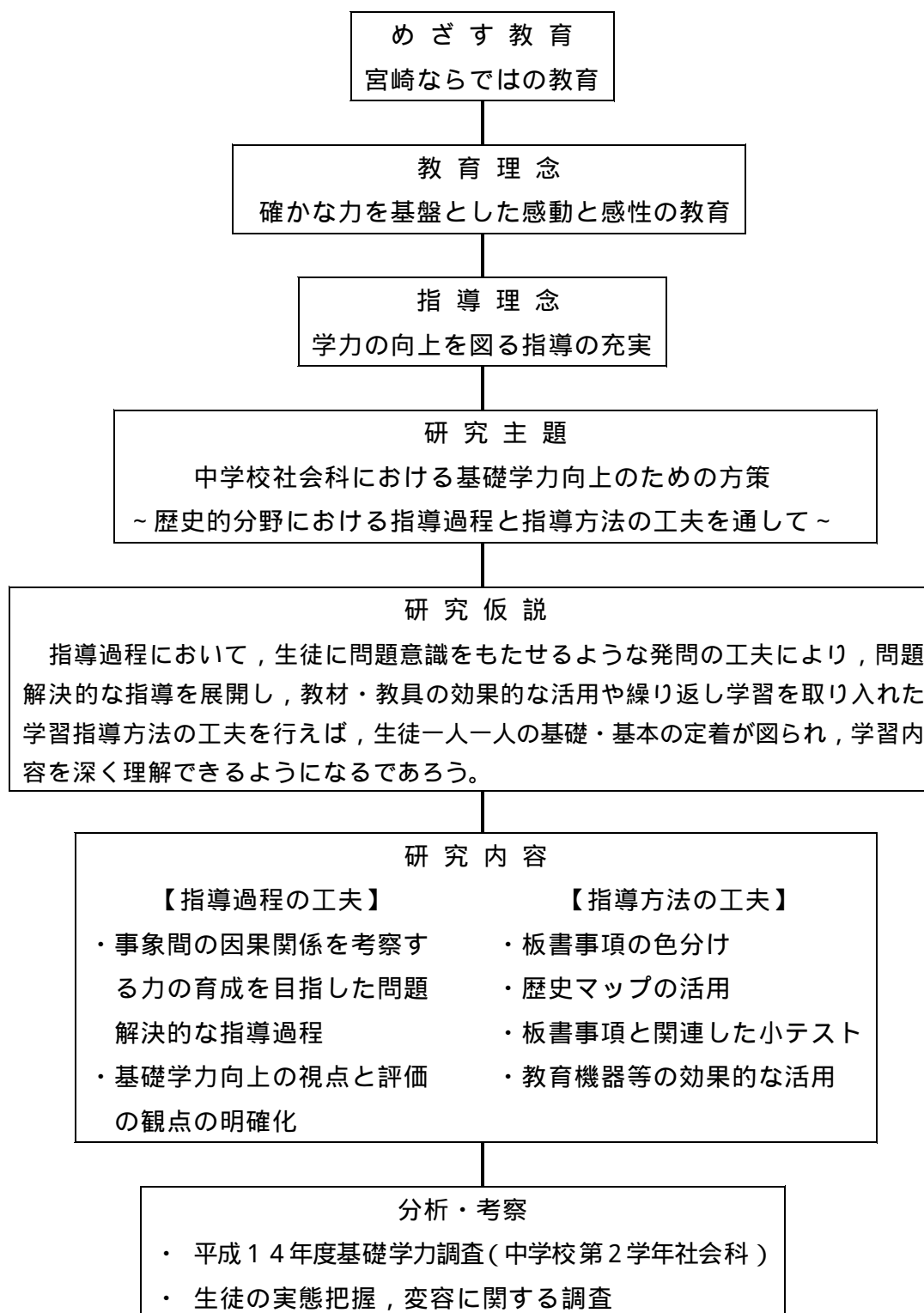
また、基礎学力調査結果分析では、生徒の実態として、資料やグラフをよみとり、自分の考えを表現する力が不十分であることを指摘している。具体的には、地理的分野に比べて、歴史的分野の正答率が低く、「事実的認識の習得が不十分な箇所がある」「歴史的事象の起きた場所及びその地名や地域の位置が、正確に地図上で把握できていない」という生徒の実態も明らかになっている。

そこで、学年が上がるにつれて低下する傾向にある社会科への興味・関心を高める上でも、歴史的分野における指導過程と指導方法の工夫を行い、社会科における基礎学力向上のための方策を研究することとした。

研究の仮説

指導過程において、生徒に問題意識をもたせるような発問の工夫により、問題解決的な学習指導を展開し、教材・教具の効果的な活用や繰り返し学習を取り入れた学習指導方法の工夫を行えば、生徒一人一人の基礎・基本の定着が図られ、学習内容を深く理解できるようになるであろう。

研究の全体構想図



研究の経過

月	内 容	
	平成15年度	平成16年度
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸調査の分析結果 ・ 調査研究の全体構想立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の全体構想の確認 ・ 研究内容の具体的準備 ・ 実態把握のための調査問題の作成
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協力学校訪問 ・ 研究の方向性の検討・研究計画作成 ・ 社会科に関する意識調査アンケート作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容の具体的準備 ・ 実態把握のための調査及び分析 ・ 研究協力学校との打ち合わせ
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科に関する意識調査アンケートの実施 ・ 社会科に関する意識調査アンケートの集計，分析 ・ 研究内容の具体的な方向性と内容について検討 ・ 検証授業の具体的準備（学習指導案形式等）について研究協力学校との打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業 実践 第2学年4組 歴史的分野 単元名『近代産業の進展と社会問題』 ・ 授業研究会・・・協議，今後の研究内容の検討
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業 実施 第1学年4組 歴史的分野 単元名『大化の改新への道のり』 ・ 授業研究会・・・協議，今後の研究内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業の分析
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容の具体的準備 ・ 研究協力学校との打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業の分析
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究実践（授業，ワークシートの活用等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果の検証
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究実践（授業，ワークシートの活用等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果の検証
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業に向けて分析，準備・研究協力学校との打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果のまとめ ・ 研究報告書の作成
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証授業 実施 第1学年4組 歴史的分野 単元名『モンゴルの襲来と日本』 ・ 授業研究会・・・協議，今後の研究内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告書の作成
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休み明け課題テスト実施 ・ 研究成果のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告書の作成
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書作成 ・ 社会科に関する意識調査アンケートの実施（2回目） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告書の作成
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書完成 ・ 次年度の研究の方向性検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告書の完成

研究の実際

1 研究の基本的な考え方

学校教育の現状を踏まえ、本県教育の充実・発展に寄与することを目的とする。

本研究では、学習指導要領に示されている目標・内容及びそれを通して育成される学力を基礎・基本と捉え、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などの観点からとらえた資質や能力を支えたり、前提となったりする学力を基礎学力と考える。

そこで、本研究では次のようなことに重点をおいて取り組むことにする。

社会的な見方の基本となる事象間の因果関係を考察する力の育成

社会的な事象についての表現力の育成

基本的な用語や人物名、地名などの定着を図る

基礎学力を確実に習得することにより、基礎・基本の定着を目指す。また、社会科は地理的分野、歴史的分野、公民的分野で構成されているが、本研究では歴史的分野を中心に研究することとする。

2 研究の内容

(1) 基礎学力調査結果の分析

平成14年度基礎学力調査の歴史的分野における結果から、次のようなことが明らかになった。

原始時代から古代までの歴史的事象を扱った問題では、社会のしくみの特徴による時代区分の理解が不十分である。指導に当たっては、単元ごとに各時代の特色をまとめる作業的な学習を計画的に行ったり、世界と日本の歴史の相関関係を確認したりしながら時代の流れを学習させることが必要である。

鎌倉時代から室町時代までの歴史の流れを確認し、その歴史的事象の時代背景を問う問題では、無解答が多く、「勘合貿易」という語句については選択できるが、合札（勘合）が何のために使われたのかについては理解できていなかった。

指導に当たっては、貿易名の由来とともに貿易に取り入れられている合札の必要性について、時代背景を踏まえながら考えさせることが必要である。「倭寇」がぬけている解答も多く見られたので、基本的な語句については確実に理解させていく指導が必要である。また、無解答が多いことから、記述式の問題を苦手としている生徒が多いとも考えられる。表現力を培うことができるよう、日常の授業において文章で表現させる機会を多く設けるなどの指導の手立てがさらに必要である。

近代化を図った明治政府の諸改革の内容や、急速に近代化を進めた我が国の大陸との関係、自由民権運動や日清・日露戦争、条約改正等について問う問題では、明治政府の諸改革の説明の中から正しい内容のものを選択させる問題の正答率が低い。これは版籍奉還と廃藩置県を混同している生徒が多いことや、学制や徴兵令、文明開化に関しての内容を理解できていない生徒が多いためと考えられる。人物名を書かせる問題では、漢字の間違いや無解答が多く、歴史的人物についての興味・関心が表面的になっているのではないかとと思われる。指導に当たっては、近代化を進めた明治維新の諸改革は、今日につながる制

度であることに気付かせ、生徒の関心を高めるとともに、その内容と社会への影響について丁寧に指導する必要がある。その際、明治政府の政策内容を説明できるようにする指導を行い、単なる知識の詰め込みではなく、明治維新における近代化を様々な視点でとらえる力を育てる必要がある。

これらの結果分析を踏まえ、社会的事象間の因果関係を考察する力を育成するための、問題解決的な指導過程の工夫と基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した学習指導方法の工夫の研究を行うこととした。

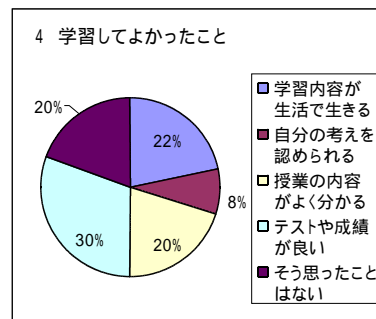
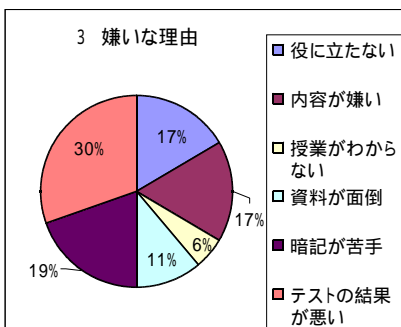
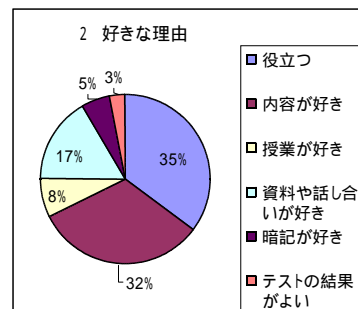
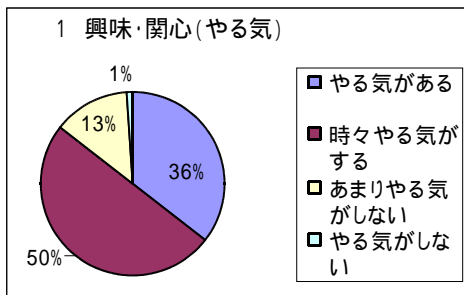
(2) 社会科に関する意識調査の実施

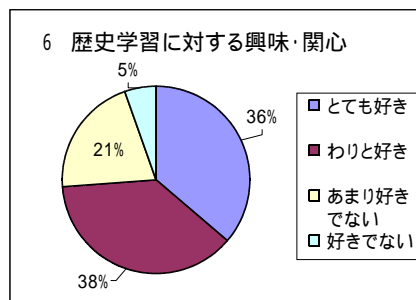
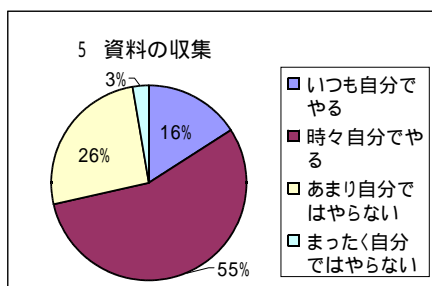
(対象：研究協力学校 第1学年 実施月：平成15年6月)

研究協力学校の社会科に関する生徒の意識調査を行い実態を把握し、仮説に基づいた研究の実践につなげようと考えた。

社会科についての興味・関心は、「やる気がある」「時々やる気がする」を合わせて86.0%が肯定的な回答をしており、歴史学習では約70%が「好き」と答えている。したがって、教科についての興味・関心は、おおむね高いと考えられる。また、「どんな授業が好きですか」という問いについては、「先生が教科書をしっかり説明してくれるとき」「個人やグループで調べるとき」「インターネットや教育機器を使うとき」の割合が特に目立っていた。このことから、基本的な学習事項については教科書に沿いながら教師が講義形式で整理し、調べ活動については生徒が主体的に活動する場を保障していく必要がある。そして学習したことを、教育機器を活用して生徒自身に発表させることにより、生徒の興味・関心を高めることができると考えられる。

< アンケート結果の一部 >





(3) 基礎学力向上のための方策

意識調査等の結果から判断される課題を解決していくために、第1学年の歴史的分野において、指導過程と指導方法の工夫を行い、基礎学力の向上を目指した。まず、指導過程の工夫として、「問いと答え」を連続的に設定し、事象間の因果関係を考察する力の育成を目指した問題解決的な学習を展開することとした。また、基礎学力の向上の視点と評価の観点を明確にする研究も行うこととした。次に、指導方法の工夫として、板書事項と関連させた小テストの実施とそのための工夫、地理的分野との関連を図った歴史マップの活用等、教材・教具や教育機器等の効果的な活用に関して研究を行った。

(4) 検証授業

ア 検証授業

(ア) 授業の視点

学習指導過程の工夫として、生徒が主体的に学習課題を設定し、それを追究していく問題解決的な指導過程を展開する。

学習指導方法の工夫として、前時に色チョークを使って板書した基礎的・基本的な事項についての小テストを、本時の導入段階で行い、前時までの学習内容の確認と学習意欲の喚起を図る。授業の中で出てきた地名をそのつど地図帳で確認させ、歴史マップ(ワークシート)に記入させる。板書は、色チョークを使用して本時の基礎的事項を明確にして、社会的事象間の因果関係を生徒が理解しやすいように構造化する。

(イ) 授業内容... 『大化の改新への道のり』(歴史的分野)

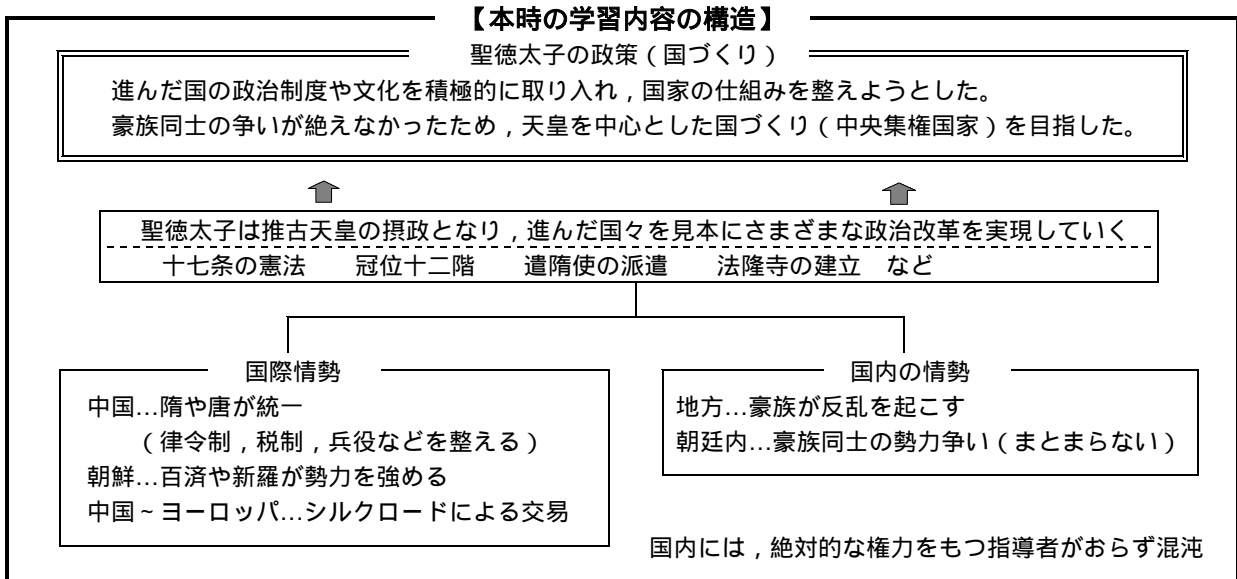
(ウ) 学習指導案（検証授業）

1 単元名 『大化の改新への道のり』
～その時、「聖徳太子」が動いた～

2 目標

- 古代日本の歴史的事象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究していこうとする態度を育てる。 [関]
- 政策や政治改革の行われた目的を、当時の社会や国際情勢と関連付けて考察する能力を育てる。 [思]
- 資料や教科書記述などの中から、必要な情報を読みとる能力を育てる。 [資]
- 聖徳太子の政治や大化の改新を学習することを通して、この時代に関する以下のような歴史の見方を習得させる。 [知]

3 本時の学習内容の構造



4 指導計画

- 大化の改新への道のり [全2時間で扱う特設単元として設定]
- 聖徳太子の政治改革と当時の国際情勢 … 1時間(本時)
- 大化の改新 … 1時間

5 本時の学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点 [視覚教材]	基礎学力向上の視点	資料準備
1 小テストをする(5問) ・聖徳太子 ・法隆寺 ・シルクロード ・遣隋使 ・十七条の憲法	前時までの基礎的事項の確認をする。	・小テスト 【基礎的事項】	・用紙
2 聖徳太子の政治改革について考える。 探究過程；その1 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> なぜ法隆寺には、古代ギリシャ建築の様式が見られるのだろうか。 </div> <p>日本は、東アジアだけでなくヨーロッパとも交易があったのではないかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本は直接ヨーロッパと交易をしていたのだろうか。 </div> <p>シルクロードを通して、中国から伝わってきた。… [ア]</p>	「聖徳太子」「摂政」「冠位十二階」を紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 最古の木造建築物であるこの寺の建築には古代ギリシャのエンタシス様式が使われていることを説明する。(OHPシート) </div> <p>当時の技術では、ヨーロッパとの交易は大変困難であることを説明する。</p>	・聖徳太子 ・摂政 ・冠位十二階 ・法隆寺 【基礎的事項】	・OHPシート

<p>それらの文化は、どうやって中国から日本へもたらされたのだろうか。</p> <p>遣隋使（小野妹子ら）... [イ]</p> <p>なぜ、聖徳太子はそこまでして熱心に大陸の文化を取り入れようとしたのだろうか。</p> <p>国家の仕組みを整えていくには、積極的に進んだ国の政治制度や文化を取り入れる必要があったから。</p>	<p>OHPシートを使って、その道のり[ア+イ]を説明する。 ビデオを見せ、当時の航海の大変さに気付かせるかせる。</p> <p>これまでの既得知識を思い起こさせ、その理由を考えさせる。</p>	<p>・隋 ・小野妹子 【基礎的事項】</p> <p>・関係考察 【説明的知識】</p>	<p>・OHPシート ・ビデオ</p>
<p>探究過程；その2</p> <p>3 十七条の憲法を読んで考えよう。</p> <p>この憲法で、聖徳太子はだれを中心とした国造りを目指しているだろうか。</p> <p>天皇中心の国</p> <p>なぜ、聖徳太子は天皇中心の国づくりを行おうとしたのだろうか。</p> <p>地方豪族の反乱、朝廷内では権力争いがあいつぎ、国を一つにまとめる必要（中央集権国家）があったから。</p>	<p>豪族にかわり、天皇の力でまとめようとしていることに気付かせる。</p> <p>ビデオの映像、教科書からその要因をつかませる。</p>	<p>・十七条の憲法 【基礎的事項】</p> <p>・中央集権国家 【基礎的事項】 ・関係考察 【説明的知識】</p>	<p>・ビデオ</p>
<p>3 学習のまとめをしよう。</p> <p>(1) 歴史マップの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法隆寺（マップNO. ） ・ 遣隋使（マップNO. ） <p>(2) 学習帳のまとめ（板書）</p>	<p>地図帳でチェックをしたあと、マップへ記入させる。</p> <p>色チョーク、板書用パネルを用いて構造的な板書を心がける。</p>	<p>・法隆寺 ・遣隋使 【歴史的地名】</p>	<p>・地図帳 ・歴史マップ ・学習帳</p>

6 板書計画

「大化の改新への道のり」
～その時、聖徳太子が動いた～

聖徳太子【 1】(推古天皇の摂政)の行った主な政策

- 十七条の憲法
- 冠位十二階
- 遣隋使【 4】の派遣(小野妹子【 2】ら)
- 法隆寺【 3】の建立(エンタシス様式)
=シルクロードを経て伝えられる

学習問題【 5】

なぜ、聖徳太子は積極的に大陸の文化を取り入れたり、天皇を中心とした国づくりを行おうとしたのだろうか？

乱れた日本の国家の仕組み 立て直したい 【 6】
↓
進んだ国に学ぶしかない！

豪族同士での勢力争い このままでは、国家はまとまらない 【 7】
↓
天皇中心の中央集権国家をつくるしかない！

1 歴史的人物 2 歴史的人物 3 歴史的地名(マップ記入事項) 4 歴史的地名(マップ記入事項)
5 全体を通した学習問題 6 ここがポイント(説明的知識事項) 7 ここがポイント(説明的知識事項)

【基礎的事項】 (色チョークを使った板書部分)

(I) 事後研究

検証授業のあとの授業研究会において、評価できる点と改善すべき点について次のような意見が出された。

評価できる点

- ・「問い - 答え」の連続を意識して授業を行った。おおむね計画どおりできていた。
- ・VTRが有効に活用されていた。
- ・学習指導案に基礎学力向上の視点の欄が加えられ、指導の視点が明確になっていた。

改善すべき点

- ・学習問題を設定させる生徒への発問がうまくできなかった。
- ・基礎的・基本的な事項を強調する指導が不十分だった。
- ・学習問題に対する追究の場面で、グループ活動を取り入れた方がよかった。
- ・学習問題は、黒板に明示した方がよかった。
- ・ノート整理のさせ方がまちまちであった。共通の整理の仕方を検討すべきではないか。
- ・歴史マップは、その都度記入させた方がよかった。
- ・生徒たちが発表した基礎的・基本的な事項は、その都度板書して意識化させた方がよかった。

(オ) 次回の検証授業に向けて

事後研究を踏まえ、次回の検証授業に向けて次のような改善案を考えた。

a 授業の内容

- ・次回の検証授業も歴史的分野で行い、その後の変容をみる。
- ・学習問題は一つにする（内容をコンパクトにする）。

b 学習訓練

- ・班活動を取り入れる。
- ・ノートの取り方の指導を徹底する。
- ・歴史マップの書かせ方を短時間に、適宜、記入させる工夫をする。

c 指導方法

- ・基礎的・基本的な事項は、授業中も板書する。
- ・学習問題は、黒板に明示する。
- ・学習問題に対しての予想を立てさせる。

d データ収集

- ・大単元又は中単元終了ごとに、生徒に授業の感想を書かせ、教師の授業反省の資料とする。

イ 検証授業

(ア) 授業の視点

検証授業の課題を踏まえ、学習問題は、生徒に予想を立てさせ、一つにしぼって黒板に明示する。歴史マップの記入は、適宜、短時間で記入させる。基礎的・基本的な事項はまとめて授業の終末段階で板書するのではなく、その都度板書し、ノートを取らせるようにする。また、基本的なノートの取り方の指導を行い、家庭での復習が容易にできるようにする。視聴覚教材（VTR等）の活用は授業展開に有効であったため、発問の補助資料を提示する際に利用する。

(1) 単元... 『モンゴルの襲来と日本』（歴史的分野）

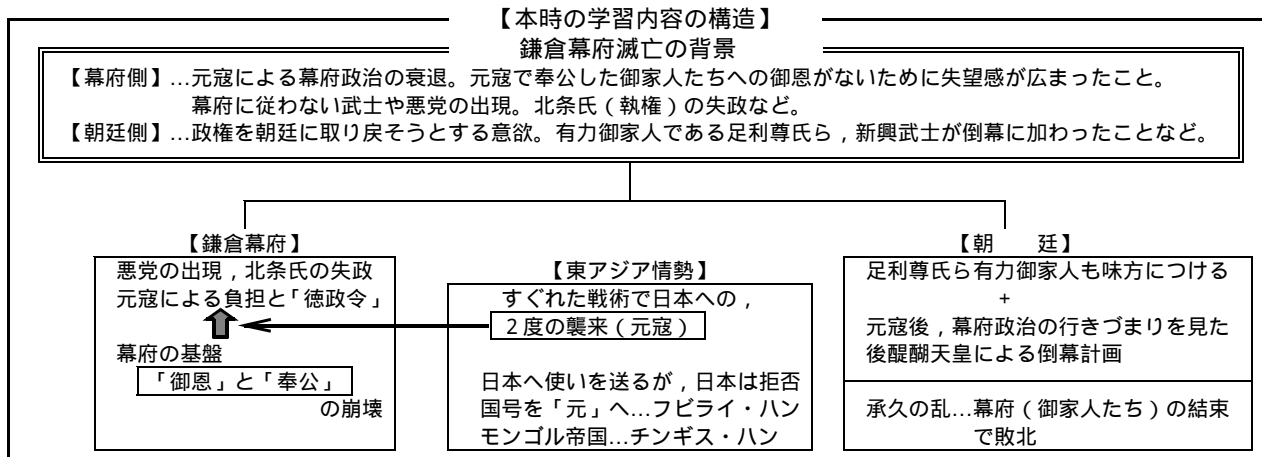
(ウ) 学習指導案（検証授業）

1 単元名 『モンゴルの襲来と日本』
～その時、鎌倉幕府が揺らいだ～

2 目標

歴史的事象に対する関心を高め、課題を見出し、それを意欲的に追究していこうとする態度を育てる。 [関]
 モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡に至るまでの要因を、当時の時代背景と関連付けて考察する能力を育てる。 [思]
 さまざまな歴史的資料から、必要な情報を読み取ったり分析する能力を育てる。 [技]
 鎌倉幕府滅亡の経緯を学習することを通して、この時代に関する以下のような歴史の見方を理解させる。 [知]

3 本時の学習内容の構造



4 指導計画

モンゴルの襲来と日本 [全2時間]
 モンゴル帝国の拡大と2度の元寇 ... 1時間
 鎌倉幕府の滅亡 ... 1時間(本時)

5 本時の学習過程

- (1) 目標
 鎌倉幕府が滅びた理由について、当時の歴史的背景と関連付けながら考察することができる。
- (2) 指導案

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 [視覚教材]	基礎学力向上の視点と評価の観点 [方法]	資料・準備
導入	1 小テスト(5問) ・モンゴル帝国 ・フビライ・ハン ・マルコ・ポーロ ・元寇 ・石塁	・前時までの基礎的事項の確認をする。	・小テスト 【基礎的事項】 ・元寇防塁跡(福岡) 【歴史的地名】	・用紙 ・歴史マップ ・地図帳
展開	2 元寇後の、日本の様子を確認する。 ・1333年...鎌倉幕府の滅亡。 後醍醐天皇を中心とした倒幕運動の成功。 3 承久の乱を振り返る。 ・後鳥羽上皇を中心に起こるが失敗。 4 学習課題を設定する。 【学習課題】 後醍醐天皇が、鎌倉幕府の倒幕に成功したのはなぜだろうか。 5 学習問題に対する答えを予想する。 ・幕府の力が弱くなっていたから。 ・御家人の不満が高まっていたから。 ・天皇が力をつけていたから。など 6 二つのVTRを見比べて考える。	・天皇(上皇)が倒幕をかしたのは、2度目であることを思い出させる。 ・六波羅探題の設置(朝廷の監視)にもふれる。 話し合い 話し合いで、学習問題を考えさせる。 班活動 話し合いで、予想を出し合わせる。 短冊による予想の掲示(内容ごと) ・ビデオ1	・1333年鎌倉幕府滅亡 ・後醍醐天皇 【基礎的事項】	・短冊 ・ホワイトボード ・ビデオ

<p>承久の乱における幕府のようす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条政子の訴え。 (1) 元寇後の幕府の対応。 ・御家人たちの訴え。 (2) 気付いたことを発表する。 ・御家人らの結束。 (1から) ・御家人の不満。 (2から) <p>7. その他の要因を、教科書や資料から確認する。</p> <p>【幕府側】... A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府に従わない武士や悪党の出現。 ・「徳政令」を出すが、北条氏の失政。 <p>【朝廷側】... B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後醍醐天皇の意欲。 ・新興武士や有力御家人が天皇側に付いたこと。 <p>8. まとめ</p> <p>A 元寇後、鎌倉幕府の基盤であった「御恩と奉公」の関係が崩れた。また、幕府に従わない武士の出現や、北条氏の失政に対する御家人たちの反感が強まった。</p> <p>B 天皇を中心とした政治の復活に意欲的だった後醍醐天皇が、有力御家人や悪党などを味方につけ、1333年鎌倉幕府を滅ぼした。</p>	<p>承久の乱（御家人たちの奉公） 北条政子の訴えに着目させる。</p> <p>・ビデオ2 元寇後の様子 御家人たちの訴えに着目させる。</p> <p>・「御恩」と「奉公」という主従関係が崩壊したことを認識させる。</p> <p>・教科書を読み、要因と思われる部分に線を引かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳政令 ・御恩と奉公 <p>【基礎的事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足利尊氏 <p>【基礎的事項】</p>
<p>まとめ</p> <p>6 本時のまとめをする。(板書)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色チョーク、板書用パネルなどを使いながら構造的にまとめていく。 ・()内に記述させる問題をさせ、達成度を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後醍醐天皇が倒幕に成功した要因を、当時の歴史的背景と関連付けて考察することができる。[観察：ノート]

6 板書計画

単元名 『モンゴルの襲来と日本』
～その時、鎌倉幕府が揺らいだ～

学習問題

後醍醐天皇が、鎌倉幕府の倒幕に成功したのはなぜだろうか。

[歴史的地名]
元寇防塁跡
シートB

元寇後のようす

<p>【幕府側】</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 將軍 御恩 奉公 御家人 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・主従関係が崩れる ・悪党の出現 ・徳政令 効果は上がらず ・北条氏の失政 </div> </div>	➡	<p>【朝廷側】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>後醍醐天皇</p> <p>天皇中心の政治の復活をねらう</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>足利尊氏ら有力御家人らも味方につく</p> </div>
---	---	---

【まとめ】

元寇後、鎌倉幕府の「御恩と奉公」の関係は崩れた。また、幕府に 従わない武士や、北条氏の失政で反感が強まった。

天皇中心の政治の復活に意欲的だった後醍醐天皇が、足利尊氏ら有力御家人や悪党などを味方につけ、1333年鎌倉幕府を滅ぼした。

—— 基礎的事項 ~~~~~ ()うめ [] 歴史的地名

ホワイトボードには 学習問題 に対する予想を掲示

(I) 事後研究

検証授業のあとの授業研究会において、評価できる点と改善すべき点について次のような意見が出された。

評価できる点

- ・板書が構造化されていた。
- ・小テストで基礎的・基本的な事項の定着度を確認できていた。
- ・学習問題の設定のさせ方にアクセントがあってよかった。
- ・生徒の主体的な活動（グループ活動）が取り入れてあった。
- ・教科書の音読は、本時の復習や確認に有効であった。

改善すべき点

- ・ノート整理の仕方の指導が不十分だった。
- ・本時では、資料集を活用させる場面が少なかった。
- ・歴史マップやファイルを定期的に点検する計画を立てるとよい。
- ・グループ活動の場面では、進行役の生徒と記録係の生徒の役割分担を明確に指示するとよい。
- ・学習内容の精選がもう少し必要だった。
- ・学習の遅れている生徒への配慮が必要であった。
- ・授業の最終場面（ノートにまとめる作業）で、支援の必要な生徒への配慮が不十分であった。

(5) 平成15年度の研究の成果

ア 定着度テストにみられる成果

4月に実施したNRT（標準学力テスト）と1月に実施した冬休み明けの課題テストでは次のような変容が得られた。

(ア)地名に関連した問題・・・NRTで該当する出題5問に対しての平均通過率は、40.4%であった。それに対し、課題テストで該当する出題10問の平均通過率は、76.0%であった。

(イ)歴史的事象の因果関係を問う・・・課題テストでの出題10問の平均通過率は77.5%であった。

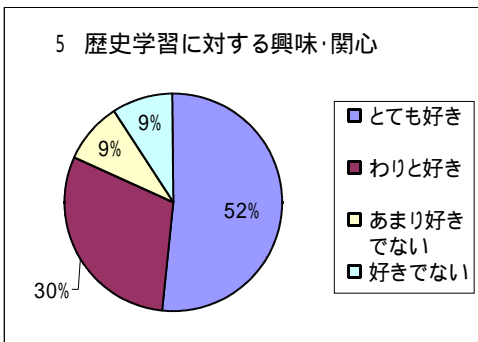
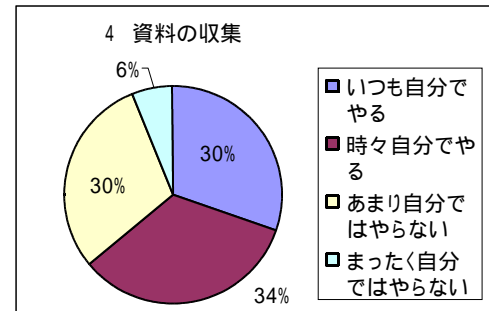
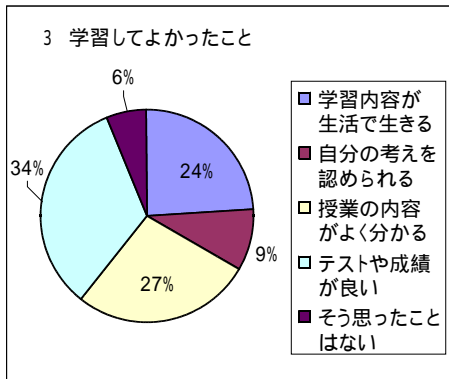
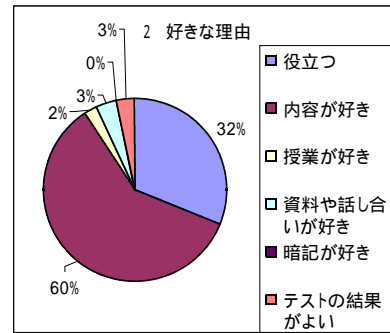
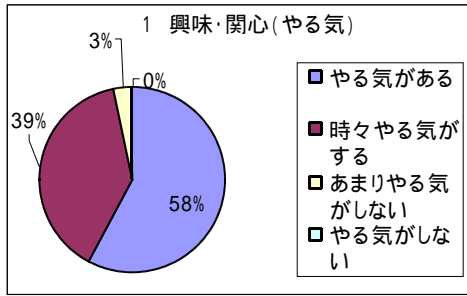
(ア)、(イ)の結果から歴史マップ（ワークシート）を取り入れたことにより、地名等に関する知識・理解が定着したと考えられる。歴史的事象の因果関係を解明していく指導過程の工夫を行うことにより、説明・表現する力を養うことができたと考えられる。

イ 意識調査にみられる成果

事前に実施した6月の意識調査と1年間の研究実践後の意識調査を比較してみると、次のような変容がみられた。

社会に対する興味・関心は、36%から58%に、資料の収集を主体的に行う態度が、15.7%から30.3%に、歴史学習に対する興味・関心が36%から52%に、いずれも高くなっている。これらの結果から、一定の成果が上がってきているものと考えられる。

アンケート調査の実施（対象：研究協力学校 第1学年 実施月：平成16年2月）
アンケート調査結果の一部



(6) 平成16年度の実践・・・検証授業

平成15年度中の成果として、社会科及び社会科の歴史的分野に対する生徒の興味・関心が30%台から50%台に上昇していることが、研究実践前後の意識調査の比較から分かる。この成果を受けて、平成16年度は、基礎学力向上のための実践を次のような点を中心に行った。まず、生徒の興味・関心をさらに高めるために、年間を通して、問題解決的な授業を展開することとした。次に、単元の内容を振り返るための指導を取り入れて基礎・基本の定着を図り、板書や授業で用いる資料等の工夫を行った。

(ア) 授業の視点

基礎・基本の定着を図るために、授業の導入段階で「小テストを実施し、生徒各自の「歴史マップ」に記入させる。

「なぜ、疑問」を追究させるような授業を構築する。プレゼンテーションや教師が工夫して作成した分析資料を提示する。

板書は、色チョークやカードなどを使って構造的に行うようにする。

(イ) 授業内容... 『近代産業の進展と社会問題』（歴史的分野）

(ウ) 学習指導案（検証授業）

1 単元名 『近代産業の進展と社会問題』
- その時、田中正造が動いた -

2 目標

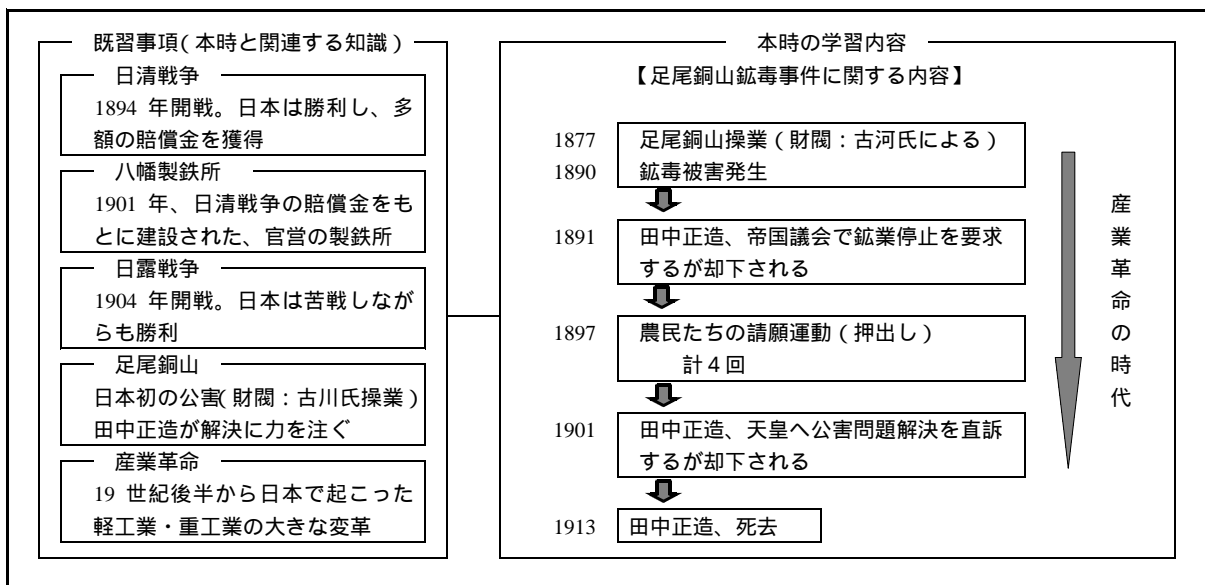
- 明治時代の日本の産業革命期における歴史に関心を持ち、意欲的に学習していこうとする態度を育成する。 [関]
- 明治時代に国内で起きた歴史的事象を、当時の時代背景と関連付けて考察する能力を育てる。 [思]
- 教師の用意した資料から、必要な情報を的確に読み取る能力を育てる。 [技]
- 日本の産業革命期における歴史を学習することを通して、この時代について次のような知識の定着を図る。 [知]

3 学習内容の構造

【基礎】...「重要語句や情報としての知識」の定着のために、
授業の開始には、既習事項の確認として「小テスト」を実施する。
授業内容に関する「歴史的地名」の習得のため、自作の「歴史マップ」に記入させる。
本題材の学習活動のなかで、関連する既習事項を確認していく。

【基本】...「説明的知識」の定着のために、
学習課題を解明させる過程を通して、意図的に生徒たちの思考を揺さぶり、事象と事象を関連付けられる（説明できる）ようにすること。

【共通】...板書は、色チョークやカードなどを使って、構造的に書き示すこと。



5 本単元の位置づけ

日清・日露戦争と近代産業 [全6時間]

本単元（人物史から見る日本史）[1時間]

- 植民地獲得競争と東アジア... 1時間
- 日清戦争 ... 1時間
- 日露戦争 ... 1時間
- 韓国と中国 ... 1時間
- 産業革命の進展 ... 1時間
- 近代文化の形成 ... 1時間

既習内容に対する
理解を深める
(基礎・基本の定着)

『近代産業の進展と社会問題』
- その時、田中正造が動いた -
(人物史から見る日本史)

6 本時の指導

(1) 目標

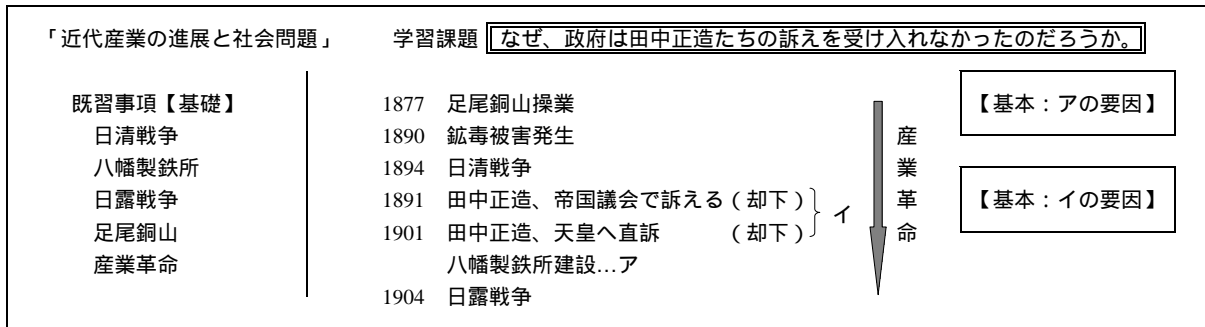
明治政府が国内産業の拡充を図った理由を、当時の歴史的背景と関連付けて考察することができる。

国内産業の発展により社会問題が生まれたが、政府は軍備拡張を第一に考えていたため、解決できなかったことが理解できる。

(2) 指導過程

段階	学習内容及び学習活動の流れ □ …発問等 □ …生徒の思考等	指導上の留意点	既習事項との関連及び評価の観点	資料準備
導入	小テスト…日清戦争、日露戦争、八幡製鉄所 足尾銅山、産業革命	・既習事項の確認をさせる。		・用紙
きづく	「足尾銅山鉱毒事件」の経緯を、年表で確認してみよう。	・財閥（古河氏）操業	・足尾銅山 ・田中正造 ・財閥	・プレゼン 足尾銅山 田中正造 年表
つかむ	この事件を解決するために、田中正造や住民たちはどのような行動を起こしているだろうか。 国会で請願 押出し 天皇へ直訴等	・田中正造や農民たちは、幾度となく政府へ請願したが、それを拒否されていることに気づかせる。	・帝国議会	・ビデオ
も	学習課題の設定 なぜ、政府は田中正造たちの訴えを受け入れなかったのだろうか。	・「なぜ～だろうか」の形で意見を発表させる。		・カード 学習問題
と	予想を立てる前に、当時の時代背景を確認してみよう。 1894…日清戦争（勝利）1901…八幡製鉄所建設 1904…日露戦争 日本の産業革命の時代	・八幡製鉄所が建設された時期に着目させる。	・日清戦争 ・八幡製鉄所 ・日露戦争 ・産業革命	・プレゼン 日清戦争 八幡製鉄所 日露戦争
め	なぜ、八幡製鉄所はこの時期に建設されたのだろうか。	・日清戦争後、政府が軍備拡大を目指したことを、理解させる。	明治政府が国内産業の拡充を図った理由を、当時の歴史的背景と関連付けて考察することができる。	・プレゼン 説明
る	予想を立ててみよう。 なぜ、政府は田中正造たちの訴えを受け入れなかったのだろうか。 国は責任を逃れたかったから 政府は国民のことは考えていなかったから 富国強兵を実現するため 国内の産業を育成するため等	・それまでの学習内容を基に予想を立てさせる。（短冊への記入）	【発表内容、ノート】	・短冊
ま	資料を使って、検証してみよう。 この時代、政府は国内産業の強化を第一に考えていた。そのため、足尾銅山のような公害問題が発生し、国民が解決を訴えても、取り上げられる時代ではなかった。	・資料を分析し、その理由を確認させる。	国内産業の発展により社会問題が生まれたが、政府は軍備拡張を第一に考えていたため、解決できなかったことが理解できる。	・検証資料 ・プレゼン 説明
い	自分が当時の国会議員だったならば、田中正造と同じように政府に訴えていただろうか。理由を含めて、自分の意見をまとめてみよう。 【立場A】 訴えていた ・国民の立場優先 ・そのための議会だ ・公害被害が広がる 【立場B】 訴えなかった ・国内産業が優先 ・天皇中心の国家 ・外国に植民地化される	・自他の価値観を照らし合わせ、当時の時代認識を深めさせる。 ・それぞれの立場から発表させ、多様な価値観を認め合う雰囲気をつくる。	【発表内容、ノート】	・ワークシート
板書	今日の授業内容をノートにまとめよう。	・構造的な板書を心がける。	・歴史的地名（マップ） 足尾銅山	・ノート

7 板書計画



(I) 事後研究

検証授業のあとの授業研究会において、評価できる点と改善すべき点について次のような意見が出された。

評価できる点

- ・問題解決的な指導過程の最終段階の「いかす」場面における発問に対して、生徒たちは様々な角度から問題をとらえ、自分なりに考察し、発表した。例えば、次の意見は二人の女子生徒の意見である。

農民の立場に立てば、やはり田中正造のように訴えと思う。それに、国民が協力しなければ、結局、国家の力も強くないと思う。

鉋毒事件を解決していくことと国力を強化することを対立するように考えなくてもいいのではないか。当時、両方を政策として同時に進めていくことは、困難な状況もあったのだろうが、事件を解決しながら、国力の充実を図る道を探ることが大切ではなかったかと思う。

この二人の意見は、苦しむ農民の立場に立った田中正造と、それを否定しようとした明治政府の立場に立って、単純に考えるのではなく、両方の立場の人々の苦悩を考えた上での意見のように思われる。このように、社会的事象の問題を客観的にとらえて、公正に判断しようとする態度がうかがえる。

改善すべき点

- ・政治的中立に留意しながら、教師の考えを生徒に紹介してもよかったのではないか。
- ・重要な語句等と漢字で書く力をさらに育てる必要がある。
- ・板書をノートに取らせることをもっと徹底させる必要がある。
- ・今後はグループの意見をまとめさせるため、リーダーの育成が大切である。

検証授業 の授業風景



研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

歴史的分野における指導過程と、次に示すような指導方法の工夫を通して、生徒一人一人の基礎学力が向上し、よい成果が得られた。

- ・事前に、授業内容の分析を行い、基礎・基本となる知識を整理した。
- ・小テストを実施して、前時における学習内容の定着を図った。
- ・1時間1サイクルの授業計画を立てることにより、学習問題を設定し「なぜ、疑問」を思考させる問題解決的な指導過程に配慮した。
- ・色チョークの使用や構造的な板書計画によって、授業の展開を生徒が理解しやすいように工夫した。

「歴史マップ」を作成し、地図帳で歴史上のできごとと関連のある地名を確認、記入させることにより、地名と歴史的事象の理解を深めることができた。

2 今後の課題

今回は、基礎学力向上のための方策として、歴史的分野において地理的分野との関連を図った指導方法の工夫・改善の研究を行った。今後は、さらに3分野の相互関連を図った授業の構築を検討し、社会科に対する興味・関心・学習意欲を高める必要がある。

参 考 文 献

中学校学習指導要領 解説 社会編 文部省
新中学校教育課程講座 社会 ぎょうせい